

グリーン教国の設定

「創造神話と聖域」

エリー

あお一ん。

ひとり神さまはひとりを悲しんだ。

すると全世界がふるえた。

波紋が広がり、ひとり神さまの内側に満ちた。

世界は、場所と生き物にわかれた。

神の子らは、男神と女神にわかれた。

二柱が結ばれると、女神の中に世界が広がった。

女神の子宮の中で、神の細胞である人が生まれた。

人は生まれては死に、新しい神の存在を作り続けた。

女神は胎児を愛し、語りかけた。

胎児は、女神の呼びかけに答えて喜んだ。

喜びは人に伝わり、生きる勇気を与えた。

人は叫んだ。

生きていることは素晴らしい！

世界が世界を包み、いくえにも重なった。

うつろだった内側が満たされ、ひとり神さまは微笑んだ。

すべてはひとり神さまの鼓動とともにある。

音と光にあふれる。

あお一ん。

あお一ん。

人々は、山奥に住んで、狩りをして食べていた。
やがて米を知り、森を開いて田んぼと街を作った。

人々は便利さを求めてどんどん自然から遠ざかった。
やがて森から人がいなくなった。

すると人里まで動物たちがやってきた。
人々は恐怖した。

そこで山で生きる人びとを選んだ。
彼らはレンジャーと呼ばれた。

レンジャーは、森を見張り、狩りをして生きた。
動物たちは再び人を恐れるようになった。

街は里山を支え、里山は森を支え、人々は住み分けた。
始まりの場所である森は聖域とされた。